

知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時：平成 21 年 12 月 3 日（木）13:00～15:30

会場：川根本町文化会館 ホール

- 1 出席者（男性5名、女性3名 計8名）
川根本町において様々な分野で活躍中の方

2 発言意見

No	項目	関係部局
1	柚子や川根茶の販売促進 農家以外の人への就農支援 若者に対する居住環境整備	産業部みかん園芸室、お茶室 産業部農業振興室
2	木材消費の拡大 山林の境界の確定 野生動物の対策	産業部林業振興室 産業部林業振興室 環境局自然保護室、 建設部森林整備室
3	川根本町の観光振興	観光局観光政策室、 環境局自然保護室 産業部みかん園芸室、お茶室、農業振興室
4	川根高校への空手部の発足 空手を利用した町の活性化 空手と農業を組み合わせた教育	教育委員会学校教育課 教育委員会学校教育課 教育委員会学校教育課
5	交流の場の創設	
6	災害対策の不安 地域に受け継がれる食文化	危機管理局危機対策室
7	中高一貫教育による川根高校の存続 保育園遊休施設の有効利用	教育委員会学校教育課 厚生部子育て支援室
8	上長尾勝手に盛り上がる会の活動 地元産木材を使った施設建設への補助	産業部林業振興室、
①	知事になろうとした理由	
②	合併 県道島田寸又峡線・国道 362 号の拡幅 芸術文化の振興 大井川の土砂や水に関する問題	総務部合併推進室 建設部道路整備室 教育委員会文化課 環境局水利用室 建設部河川企画室、河川砂防管理室
③	接岨湖でのコンサート実施	観光局観光政策室

3 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>1 柚子や川根茶の販売促進、農家以外の人への就農支援、若者に対する居住環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前、川根のお茶は作れば売れていたが、ここ2～3年厳しくなっており、試行錯誤しながら頑張っている。 ・ 自分は川根本町農業経営振興会で、県という認定農業者という会を中心に活動している。また、日々地域のためという目的で活動している。 ・ お茶の栽培を中心に柚子の栽培もはじめた。世間の消費低迷の影響は柚子の販売にも出ており、今年は大変厳しい。 ・ 今までは柚子を直接市場に出していたが、今年初めて付加価値を付けるため、長野のある業者に加工を依頼した。 ・ 昨日その試作品が届き、昨夜遅くまで経営振興会の仲間と期待と不安を抱きながらレットルを貼ったり、販売方法を話し合ったりした。 ・ 柚子酢とマーマレードができたので、今後川根柚子として少しずつ浸透させるよう頑張っていきたい。 ・ 消費者がどういう気持ちで川根茶を飲んでいるのか、調べなければと思う。今まで自分たちは経営努力をしてこなかった。これからは県、農林事務所、JAを含めいろいろな機関からアイデアをもらいながら頑張っていきたい。 ・ 茶葉の単価が落ちている現状から、全県で生葉出荷調整を将来的に考える必要があるのではないか。 ・ 若者を大事にするため、田舎でもそこそこ生活できる環境を作る必要がある。 ・ サラリーマンが農業をしたい場合、規制が多く手続きが大変だと聞く。農家以外の人、若者が農業に就職できる手助けをして欲しい。 ・ JAが県に対し、積極的に農業のアイデアを出して欲しい。 ・ 川根地域にまだまだある宝物に気づいていき、前向きにいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼食の時に農業経営振興会の方から「みらい」という紅茶を出してもらったが、イギリスのダージリンよりも美味しかった。しかし、宣伝をしていないようで残念に思った。 ・ 美味しいものを作っており、使い道を自分で工夫することが大事である。 ・ 柚子を栽培し、お酢とマーマレードを作っているということは、パン食と関わることになる。大井川鉄道と交流し、駅でマーマレードを出す店を一緒に考えてはどうか。良いものを作っているのは確かなので、どう使うかに知恵を絞るということになる。 ・ 若者の定住を促進する住宅を見たが、もっと収納や庭があった方が良い。また、保育園の利用という関わりの中で、県有地や町有地を活用してはどうか。住む人の立場に立って知恵を出していけば若者の定住は、まだ増えると思う。 ・ サラリーマンが農業をやるには、所有者、地権者の方から少し広めの土地を借りてやるやり方が、一番簡単である。 ・ 本当にアイデアが重要であると思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>2 木材消費の拡大、山林の境界の確定、野生動物の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林は二酸化炭素の削減、環境、再生可能な資源として非常に評価が高い。 ・ しかし、材価は昭和 55 年をピークに下がり続け、今の不況の中でまた下がっている。社会的評価に比べて、経済が伴っていない。 ・ 建築の方法で、内装を木にするなど県産材、地域材を使う方策を考えて欲しい。 ・ 木材の消費拡大が第一である。それが町民の環境をよくすることに繋がる。 ・ 戦後植林して手入れしてきた人が高齢になってきた。しかし、その後継者は山に行ったことがなく、山の境界がわからなくなっている。今後、木を利用するに当たり、森林の境界を確定する必要があるが余り時間がなくなっている。 ・ 時間がかかるのは分かっているが、山林の境界確定のため、何か手立てをして欲しい。 ・ 30 年前は猪だけだったが、今では猪、猿、鹿、熊の被害がある。 ・ 鹿は植栽した木の食害、熊は木の皮を剥かれることにより、非常に価値のある木材の価値がなくなる被害を受けている。 ・ 野生動物は、川根本町では基本的に自由であり、来られて困る場合は、網を張ることになる。 ・ しかし、野生動物には見えない境界があり、それを越えて、都市部などでその存在が確認されると、即銃殺などの対応がされる。 ・ この地区でも被害が出てからでなく、迅速な対応をして欲しい。 ・ また、都会で野生動物の共存をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後に植えた杉や檜で、利用できるもののうち、全県で 30%しか使っていない。 ・ 都会の人が、木を植えることで、二酸化炭素を吸収し、低炭素社会を作る、環境に優しい社会を作ることができると思うが、大事なのはどう使うかである。消費がなければ、供給はない。需要がなければ、供給がない。消費を考えなければならない。 ・ 県で公共の建物を建てる場合の構造を鉄筋木造コンクリートとしてはどうかと考えている。 ・ 鉄筋でしっかり芯を入れ、コンクリートで土台を作り、柱に丸太を使うもので、角材とせず、丸太をそのまま使い生産費を抑える工夫をする。 ・ 我々はいかにして使うかに知恵を絞っていききたい。 ・ 野生動物については、深刻である。野生動物と人間の共生をなさいと都会の学者がいうなら、都会で共生してみろというのは、いい言い方である。使わせてもらう。 ・ ルールを決めて、対応しなければならない。共生ではなく、すみ分けである。すみ分けを犯した場合には、相応の処分を考えざるを得ない。静岡県はそういう時代に来ている。 ・ 境界の確定については、なかなか難しい問題であるが、森林組合と話をしていけば解決法があると思う。 ・ 重要な問題として認識している。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>3 川根本町の観光振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町全体の観光振興をし、静岡県が全国に誇れる財産にしていきたい。 ・ 町には、大自然が豊かで本州唯一の原生自然環境保全地域、寸又峡温泉の美女づくりの湯、接岨峡温泉の若返りの湯などのすばらしい温泉、SLや日本唯一のアプト式鉄道、日本一の川根茶がある。 ・ しかし、原生自然環境保全地域という肩書きが生かされていない。 ・ 空港を利用し、今まで交流の少なかったお客にも来てもらい、SLやトロッコに乗り、大自然を満喫し、温泉に浸かりながら、日本一のおいしいお茶を飲む、そんな贅沢ができる観光地域である。 ・ 前知事が推し進めた奥大井南アルプスマウンテンパーク構想は、最近その言葉も全く聞かれなくなった。県の中で、奥大井の観光振興策は、どのような位置づけになっているのか。 ・ 昨今の中高年の登山ブーム、全国に見られるエコツーリズム的観光の成功例により、交流人口は減っているにも関わらず、ハイキングや登山客の割合は少しずつ増えている。 ・ しかし、日本百名山に選ばれた南アルプス国立公園の光岳から寸又峡温泉への道路は行き来ができない。静岡県にある山なのに、長野県からしか上り下りできないのは非常に残念である。 ・ 10年、20年後の町の観光をイメージした時エコや健康志向、ネイチャリング、登山ブーム、エコツアーの利用者はもっと増えると思う。富士山静岡空港と結びつけながら、川根本町の交流人口の増加に繋がるよう願っている。 ・ 観光、お茶、林業は町が生きる運命共同体である。何か欠けても、町としても成り立たなくなる認識を個々が強く持ち、互いの協力を進め、一層頑張っていきたい。 ・ 商工会青年部として、観光の視点で町を元気にし、活性化するため、交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光を交流人口を中心にやるという考え方はとても重要である。 ・ 町には温泉やSL等があるが、何と言ってもティーがある。 ・ よくグリーンツーリズムというが、川根本町ではこれを、お茶を軸にしたティーガーデンシティとして売り出してはどうか。 ・ お茶、みかん、桃、バラ、手入れされた森のあるガーデン、空港から奥座敷の川根本町まで、全体をガーデンシティとして、町の一体感、大きな地域の一体感を作り上げてはどうか。 ・ 町にあるすべての銘柄のお茶を揃え、器にもこだわったティーバーを作ってはどうか。 ・ 器は中国の浙江省にある有名な竜泉のお茶碗を使ってはどうか。竜泉は町は小さいが風格、品格、歴史、伝統、自然があるので、姉妹関係を結ぶ。竜泉のお茶碗で天空ティーを飲む。 ・ ティーもおいしく飲むために、そのスタイル、茶托、器、飲み方と、それができる場所を考え、やっていけばそこから川下に広がっていく。 ・ いやしの里診療所もある。いろいろな材料を組み合わせることに、思案のしどころがある。 ・ 奥大井南アルプスマウンテンパーク構想は、ずっと続いているものと思っている。これはこの地区を自然遺産にしていく運動につながり、自分も進めているものである。 ・ 全面的に協力していく。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>人口の増加を目的に企画しスタートした「奥大井サスペンスブリッジ恋愛事件」をメイン事業に頑張っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町を何とかしたいという地域愛にあふれる強い仲間の集まりが青年部である。 ・ 町で育ち、家業を継ぎ、子どもを育てる。過疎化、高齢化の進む町では若者への期待、その役割とも大きくなっていく。 ・ 地域を愛し、頑張る若者を町、県として、応援して欲しい。県が好き、町に生まれてよかったと思う人が増えるようお願いする。 	
<p>4 川根高校への空手部の発足、空手を利用した町の活性化、空手と農業を組み合わせた教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川根地域の3ヶ所で、空手教室を開いており、月曜日から土曜日の夜6時半から9時半まで空手漬けの毎日約80人を指導している。 ・ 第1期生は大学生や社会人となり社会で立派に活躍している。 ・ 地元の高校を卒業し、都会の荒波にもまれ、ドロップアウトし、町に戻ってきてニートになっているという子どもを見ている。 ・ これではいけない。小さいときからの教育が一番大切と思っているが、空手をやっている子どもにはまだそういう生徒はいない。 ・ 2年ぐらい県空手道連盟の理事をやっており、小・中・高校生の強化委員をしている。 ・ 県中部に、空手部のある公立高校は1校しかない。 ・ 少子化が進みスポーツ少年団の人数は減っているが、空手については、微増している。これは、親御さんに我が子に精神的に強く立派な大人になってもらいたいとの思いがあると感じる。 ・ しかし、受入れる学校がないため、中学卒業後にやる気があっても空手を続けられない子がいる。将来的に有望 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡高校に空手部があるので、川根高校にできないことではない。 ・ 生徒数が少ない場合は、団体スポーツは向いていないので、日本古来の武道の方が、一人一人が心身ともに逞しくなる手段として、取り入れることにふさわしい。 ・ 新しいことを始めようとする、反対者が多い。 ・ 7:5:3の原則というものがあり、15人いると、当初賛成3人、反対7人、どちらでもない5人となる。しかし、賛成者3人が団結し、5人を1人ずつ説得すれば賛成:反対が8:7となる。しかも、賛成者に勢いがつくため、新しい意見が実現できるという原則である。 ・ 新しいことを行うのに、抵抗勢力があるのは当たり前である。OBの説得に努めれば、きっと母校がなくなるのを黙って見てるのは忍びないとの愛校心から、自分のできることで協力しようとの気持ちになり、教育のためであり、文武両道で心身ともに逞しくなることであれば、説得力があると思う。頑張ってもらいたい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>な県下の生徒のために川根高校に空手部ができればよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町から離れた他地域からの生徒は、民家や廃業になった民宿等で受入れ、町ぐるみで取り組めば、人口も増加し、若者も増え、面白い町になるのではないかと思う。 ・ 数年後に川根高校がなくなるのではないかという噂をよく聞く。高校がなくなると、中学を卒業したら町を出て行かなければいけなくなってしまう。場合によっては、小学校を卒業すると家族で町を出て行かなければならなくなってしまう。そうならないためには、高校の存続が必要である。そのために空手を生かせればと考えている。 ・ 自分が昼間やっている農業を空手の生徒も手伝ってくれる。空手と農業を組み合わせれば、大きな意味で教育に入っていけるのではと考えている。 ・ これからは物質的な豊かさよりも精神的な心の豊かさを求める時代に入っている。精神的なものを教えるのに、武道や、自然に適した農業から入るのが、一番子どもにとって入りやすいやり方ではと思う。 ・ 知事には、東国原知事のようにもっとテレビに出て、静岡茶のPR等をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お茶のPRについては、アメリカのウィスコンシン州の長官を通じて静岡茶のティーボトルを送付しており、州知事公邸のクリスマスツリーの周りにそのボトルが並ぶことになっている。 ・ テレビに出るやり方もあるが、いろいろな方法がある。出逢いの中でその人のハートを動かし、その人がまた別の人のハートを動かすことが大事であると考えて、私も自分のやり方でセールスを一生懸命やっている。
<p>5 交流の場の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同年代の若い友人と、どんな町になればずっと住みたいと思うか、何があれば川根に戻ってきてくれるかという話をすると、働く場はもちろんだが、若者が仕事帰りや夜に立ち寄れる場所が欲しいという話が必ず出る。 ・ 仕事以外で町内の店を使うことが余りないので、そういう施設が欲しい。 ・ 当たり前のようにお茶を飲んでいるが、どうやって作るのか、何種類お茶の銘柄があるかは全然分からないので、お茶を使ったカフェがあれば、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜の集まりの場がないのは寂しい。これは出逢いの場がないということで、人口が少なくなる原因にもなる。町長としては若者が集まる場を絶対作らなければならないですね。 ・ 青年が集まれる場所を作り、仕事帰りに交流するのはとても大事なことである。春休みや、夏の休みに県下の青年が遊びに来ることも考え、出逢いの工夫をするのはとても大事である。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>若者の知識が増え、町外の方にも教えられ、上の年代の方との交流の場にもなると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で働く自分たちも、何か楽しんで生活できるようなまちづくりをすれば、皆が帰ってきてくれると思う。 	
<p>6 災害対策の不安、地域に受け継がれる食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は24戸60人足らずの限界集落に住んでいる。ほとんどの家庭に高齢者がおり、一人暮らし、二人暮らしが大半である。 ・そのため、東海地震のような災害が起きたとき、どのようにお年寄りを避難させるか心配である。山崩れがあれば陸の孤島になりかねない。ヘリの救助を要請しても、ヘリを停める場所がないと地区の役員は頭を抱えている。 ・条件は悪いが、ここに住む人はここをどこよりも愛し、林業、茶業が低迷する中でも頑張っている。それは、緑が多く、心を和ませるゆったりとした空気が流れ、住む人の人柄がよく、お互いに支えあい、助け合っているからだと思う。 ・また、ここには季節に沿ったすばらしい食文化がある。中でも手作りのそば、味噌、豆腐、コンニャクは絶品で嫁いで魅せられてしまった。この文化を地区の先輩に手取り足取り、身体で覚えるまで丁寧に教えてもらった。 ・そのおかげで、味噌の加工場を昭和60年に造り毎年楽しく製造し、交流の場にもなっている。 ・ここ数年は、農協婦人部の人と小学校に出向き、子どもたちと豆腐やコンニャクを作り楽しい一時を過ごしている。 ・お世話になった先輩たちへのお礼に、「坂京いきいきサロン」を立ち上げ、毎月一回お昼を作り、食べ、おしゃべりをしたりしている。 ・お年寄りが、これからも元気で一日も長く、自立した生活ができるように、お手伝いできるといいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大都会には1000人ぐらい入っている大きなマンションがあるが、その方々が隣の人を知っているかということ、近隣とは全く付き合いのない世界がそこにある。 ・60人の人たちがお互いに助け合っているのは、都会では絶対にできない良さを持っていることである。 ・コンニャク、豆腐等健康になるための食文化がありある意味長寿になれるところにいるということである。限界集落と言わず、長寿の極楽郷と言ってはどうか。 ・災害については、どんな状況下でも日本の自衛隊は来てくれる。自衛隊と県民との関係が静岡県ほどよいところはない。 ・危険は山であろうと、都会であろうとどこでも同じである。土砂崩れだけでなくいろいろな危険があり、それに対し危機意識を持っていることが非常に大事である。 ・自分たちでできないことはコミュニティで、コミュニティでできないことは町で、町でできないことは県でやる。そういう問題提起をして欲しい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>7 中高一貫教育による川根高校の存続、保育園遊休施設の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地名には川根唯一の田んぼが8町歩ほどあり、そこで毎年案山子コンテストを行っている。 ・ 案山子をおじいさんから子どもまで一緒になって作ることで、コミュニティの和ができ、地域防災として独居老人を子どもたちが知る機会になり、とてもいい生涯学習だと思いを勧めている。 ・ 川根高校は最盛期 577 名であったが、最近では 205 名である。5 年後に旧川根町も含めた川根高校に進学してくる子どもは 30 人くらいになってしまう。そうすると 1 学年 2 クラス維持は難しい。 ・ 生徒定員を少なくして、県単で 25 人の理想的学級を作り、教員を配置してもらえればいいが、そうはいかないものと思われる。 ・ 2000 年からはじまった中高一貫教育の文部省の指定を受けた五ヶ瀬中等教育学校は、宮崎県五ヶ瀬という人口 4,400 人の小さな山の中の町にある。1 学級 40 人で、中学 1 年から高校 3 年生までおり、生徒は「フォレストピア」という、森林のユートピアを求めていることを教育理念として勉強している。全寮制であり学校の中に自然を尊ぶ気持ちで勉強しようという空気が流れている。 ・ 卒業生 40 名中 20 名ほどが国立大学、それ以外の生徒は有名私大に入学するというすばらしい成績を上げている。全寮制で縦割りのため、年長者が年下の者に勉強を教えていく。生徒同士が切磋琢磨し、資質を高め合っていくことができる。一方で地元の小学校から、なかなか入学できないという問題もある。 ・ 五ヶ瀬中等教育学校にある問題を調整し、川根高校の理想的な姿を作るよう教育委員会に指導して欲しい。 ・ 以前は保育園が自動車での送迎をしてくれたが、人数が減り行われなくな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高一貫は本県も進めているところであり、浜松西高など成功している事例もあるので、川根で中高一貫ができるか、是非考えさせて欲しい。教育委員会とも相談する。 ・ ポイントは全寮制にあるようである。今は学校に通う、ということになっているが、土日や長期休みは、家庭に帰るようにし、学期中はそこにいて規律正しい生活をするのができれば良いのではないか。 ・ アメリカのハーバードや、イギリスのパブリックスクールはすべて全寮制であり、レディーやジェントルマンが育っている。そういう文化が外国にあり、日本にも以前はあったが、今はなくなっているだけである。川根で人数が少なくなったことにより、中学・高校が一体になり、新しい試みとして中高一貫の文武両道の学校ができれば良い。 ・ 遊休施設については、いろいろな法律があるのかも知れないが、抜け道を考えて実現して欲しい。小さな子どもたちと、おじいさん、おばあさんが、一緒にいられる場ができるのは本当に良いことだと思う。 ・ 無駄な形で放置されることがないように知恵を絞って欲しい。またできることがあれば言って欲しい。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<p>ったので、復活させて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の立派な施設があるが、開店休業になっている。理由は補助金で作ったので他のことに使うと目的外使用として監査で指摘されてしまうためとのことである。遊休施設は、税金の無駄遣いである。 ・ 区としては、その施設を老人と子供たちが一緒に過ごす空間として、又は地区の事務所として使用したい。また、案山子コンテストをやるときにトイレを開放すれば、お客さんも便利になる。 ・ 補助金の使い方と規制について考えて欲しい。 ・ 文化がないということは、若者を地元から離す原因だと思う。若者の集まる場所や、スケールの高い文化が高校を中心として地域に根付けば、若者がもっと心安く定着できるのではないか。 	
<p>8 上長尾勝手に盛り上がる会の活動、地元産木材を使った施設建設への補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが住むところを、自分たちの手で、力で、住みよく楽しくしていかなければならない時代になっている。しかし、なかなか積極的な動きができない。何をすればよいか分からない。 ・ そこで、自分が近所の人とにぎやかにやっていることを話そうと思う。 ・ 自分の住む上長尾に「上長尾勝手に盛り上がる会」を作り、ここ数年少しずつお祭りを盛り上げている。 ・ 地元の智満寺という大きな寺で、毎年8月に観音様の祭りがあり、地元婦人会が手踊りをしていた。そこへ自分たちが方丈さんと相談し手踊りをフラダンスにしたり、大福引大会をやったりして内容を膨らませた。フラダンスは当初寺の下の方で行っていたが、今年は境内の中でにぎやかにやった。 ・ それだけでなく、今年は秋の鎮守様の祭りにも参加し、演芸会を行ったが、当日は若者やおじさんが手伝ってくれ、バザーや様々な人による演芸が行われ大盛況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝手に盛り上がる会が、ついに観音様のお祭りで境内に入っていったというのは、もう拍手喝采である。 ・ そして、従来の祭りにフラダンスを加えたり、演芸、いろいろなものを加えていく、これが知恵の出どころである。 ・ 私は新しいものと古いものが結合する新結合、これが大事だと考えている。今、静岡県に求められているのは、従来のものとは違うものと組み合わせることであり、新しいものを生み出すというのは、今あるものを違う形で組み合わせるということである。 ・ ここで、ティールームを作るには、合併浄化槽で十分で、補助を出すには、住宅でない駄目だというのは理不尽な話である。町長と私で何とか考えましょう。 ・ 地域の材料を使い、地域の大工、材木商と一緒にやれば、みんなのためになり、公益になる。子どもも増えるかも知れず、どういう出逢いがあるかも知

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったよという声を聞き、このようなことで、地域をにぎやかにし、元気にすると思い、来年も是非やろうということになった。 ・ 7、8年前に勝手に楽しんでいたものが、回りの人たちに働きかけることで膨らめていったものであるが、それを支えてくれた区の方々に、すごく感謝している。 ・ 自分は地元の人が立ち寄れる、お茶のカフェを開こうと考え、少しでも経費を安くするために、地元産の木材を利用した場合の補助制度を役場で聞いてみた。 ・ 住居はいいけど店舗は駄目、合併浄化槽も店舗は駄目とのことであり、唯一補助が出るのは多機能倉庫だけとのことであったが、それを利用し、ぜひ若者が集まれる場所を作りたい。 	<p>れない。今聴いたことを真剣に考えたい。</p>
<p>傍聴者① 知事になろうとした理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知事の仕事は大変なのに、なぜ知事になろうと思ったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は大学でずっと勉強していた。自分を鍛えながら人のために、また世の中のために、あるいは若い人たちを育てるためにしていた。 ・ そして大きな人間になって、県知事になりたいというよりも、知らぬうちに県知事に推されていた。私はどうしてなったというよりも、気がついていたらなっていた。
<p>傍聴者② 合併、県道島田寸又峡線・国道362号の拡幅、芸術文化の振興、大井川の土砂や水に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年3月で合併特例法は廃止になる。 ・ 川根本町の財政力は低い。 ・ 将来川根本町をどのようにするつもりであるか。県の構想を知りたい。 ・ 国道362号、県道島田寸又峡線の拡幅が進まず、生活道路として非常に不便である。まずは、県道の徳山から西に抜ける道から整備をして欲しい。 ・ 町では神楽フェスティバルを地元9団体、県外9団体が参加し、盛大に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併特例法は来年の3月までであるが、賀茂地域、富士宮と富士、沼津と三島も考えられる。 ・ 空港ができて、空港から川根本町までを一体ととらえる考えが、空港地域の人にある。奥大井を案内したいというものである。そういう交流が深まれば合併の問題も出るのではないか。 ・ しかし、ここに来るまでの道路が整備されていなければ、仕方がない。これには大変お金がかかるので、選択と集中が必要となる。

出席者発言要旨	知事発言要旨
<ul style="list-style-type: none"> ・ グランシップや、富士山静岡空港には多額の予算が使われたと聞いている。 ・ しかし、古典芸能振興の補助はなかなかしてもらえない。 ・ 文化の振興、文武芸についての政策を聞きたい。 ・ 大井川は5 mほど土砂が堆積している。その砂利の採取権、電力の水利権を国や県に吸い上げられている。 ・ その共有利益を地元に戻元して欲しい。 ・ 井戸の水は出なくなり、生態系も魚がいなくなり崩れるという大きな問題も出ている。下流域 60 万人の生活、農業、飲料も大切であるが、上流域の人はずっと我慢しているだけである。何か経済的に応援してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの所で道路問題を抱えている。予算がカットされていく中、どこから優先するかが、ポイントである。道路を造るのは公共政策を預かる者の一番大切な役割だと考えている。 ・ 大井川の土砂や水の問題、だんだん水量が少なくなってきているという問題は知っているのですが、すぐにできるとは言えないが、利益が還元されるような方法で考えてみたい。 ・ 国民文化祭では、内外から 210 万もの人たちが来て、全県挙げて燃えた。 ・ こういう各地域に生き残っている文化、財産を宝物として「ふじのくに芸術街道」として位置づけたいと思っている。 ・ リニア新幹線ができると、東海道沿線ですら、列車の行き来が今よりずっと少なくなる可能性がある。 ・ どうしたら人が来るか。景色がいい、食事がおいしい、人は親切、そしていろいろな文化が残っている。お祭りがある、古典芸能がある。 ・ そうしたものがあるということで、すべての街道を「ふじのくに芸術街道」というような形で、これから 10 年で作っていかうと思っている。古典芸能が大事だと思っている。 ・ 残し方の工夫をすると、人々が元気になる。勝手に盛り上がる会を作っていくと、神楽やいろいろな古典芸能も違う形で生かせるやり方があるはずである。
<p>傍聴者③ 接岨湖でのコンサート実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接岨湖で東儀秀樹氏を招きコンサートを実施したい。プロモーションビデオを作ったので見て欲しい。3年後には実施し、全国や中国の浙江省からたくさんの人に来てもらいその人たちの口コミでここにたくさんの人に来てもらえるようにしたい。 ・ 踊らにゃソングという盆踊りの曲も作ったので、全国的に広めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こういうやる気が大切である。(知事が会場でDVD、CDを受け取った。)

出席者発言要旨	知事発言要旨
	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日、来てくれた皆さんには恐らく言いたいことがいろいろあると思う。私に頼むこともあるだろうが、自分たちでできることがあるはずである。 ・ 知らないと何もできないので、私が知っていた方がいい場合もある。例えば、東儀氏の計画を知っていれば、何かの機会に会ったとき、川根本町のPRをすることができる。 ・ そういう口コミや、いろいろなネットワークで広がるものである。 ・ 様々なことをマイナスに考えるのではなく、明るい気持ちを持つことが必要である。 ・ 空港には多額の費用がかかったが、その分有効利用するように考える。 ・ 空港を利用することで、新しい結びつきができる。 ・ 大切な税金を投入したものを、上手に生かすことは必ずできるはずなので、知恵を絞ることが大事である。 ・ いろいろな可能性と問題が出てきた。足りないものは何か。フラダンスと観音様という普通結びつかないものを結びつける新しい発想。 ・ いろいろ聞いたことを政策に反映していきたい。不十分なら、直接言いに来て欲しい。町長と一緒に取り組みたい。大井川や、道路の問題は聞いていたが、すぐ解決はできない。しかし、解決する方向で一緒にやっ払いこう。足を引っ張るより、一緒に一歩でも、半歩でも進もうという思いである。